

次代につなぐ持続可能なあま市を目指して
—都市計画税の活用による「安全・安心・快適なまちづくり」—

- 1 日 時 2024年11月17日（土）午後4時から午後5時半頃まで
- 2 場 所 七宝公民館
- 3 参加者 37名
- 4 内 容
 - (1) あいさつ
 - (2) 資料説明
 - (3) 質疑応答

【質疑応答要旨】

	質問等要旨	回答要旨
1	市街化区域内の田がなくなったら、ため池や幹線水門はどうなっていくのか。	都市計画税を導入することになりましたら、雨水対策をしっかりと取り組んでいきます。 既存の農業用設備と併せ、雨水貯留槽や雨水管などの整備を進めていきます。
2	資料の18、20頁にある広場や公園の整備は、旧七宝町地区では、具体的に計画しているのか。	令和7年あま市議会3月定例会に都市計画条例案を提出し、可決された際は賦課徴収開始までの2年間で、総合計画や都市計画マスタープランの見直しを行う予定です。 現在のところ具体的な施設整備の計画は定まっていませんが、市街地内でのまとまった用地の確保が問題となると見込んでおり、地区の御要望等を伺いながら広場や公園等の検討も進めていきたいと考えています。 現在七宝地区には2か所の都市公園がありますが、まだまだ増やす必要があると認識していますので、皆様の御理解いただきたいと思います。

	質問等要旨	回答要旨
3	旧七宝町には鉄道が通っていないため、名鉄バスが主要公共交通となっているが、渋滞が原因で通勤等に苦労している。 この対策に都市計画税を用いていく可能性はあるのか。	バス路線の問題に関しまして、現在県道名古屋津島線の南側において4車線のバイパス整備に県が取り組んでいます。 これが完成した際には、バス路線の定時性の確保や渋滞緩和が期待されていますので、市としましても早期開通に全力を挙げて協力等しています。 都市計画税を県道整備に充当することはできませんが、この地区の交通事情の改善を考え取り組んでいるところです。
4	説明を聞いて都市計画税の必要性は感じるが、やはり都市計画税は増税であって年金生活者である高齢者等にとっては、増税は困るという意識は高いと思う。 令和7年あま市議会3月定例会で都市計画税条例の審議がされるが、その前に住民投票をやる計画はないか。	住民投票を行う例としては、大型の公共施設等の整備など、住民の関心が高い政策につきまして、住民投票条例を制定して、住民の意向を問うものがあります。 税の賦課徴収に関する事項は、市議会での審議により住民の意向を反映させることが適切とされていますので、あくまでも議会において慎重に御審議いただきたいと考えています。 また、物価高騰対策につきましては、所得税や住民税の減税等の対策を講じていますので、今後とも国や県と連携してしっかりと取り組んでいきたいと思います。 安全安心なまちづくりを推進するため、下水道の汚水及び雨水整備を行いゲリラ豪雨や線状降水帯といった災害に強いまちづくりを進めていきたいと考えています。

	質問等要旨	回答要旨
5	説明の内容について、10年、15年前にもわかっていた問題を放置しておいて、予算が足りないから都市計画税を導入することは、「行き当たりばったり」の行政運営であるような気がする。 あま市の住民税は他市と比べて高いという状況のなか、都市計画税は他自治体と同じ税率0.3%で良いのか。将来をしっかりと考えて行政運営を行っていただきたい。	あま市の住民税が高いという御発言がありましたが、地方税法において税率が決まっていますので、あま市が特段高いということはありません。 また、10年以上前から問題が分かっていたのではということでしたが、近年の扶助費の伸びは我々の想像を超えています。 こうした中、都市基盤整備を進めるための財源確保が限界を迎えているため、今回資料にて御説明した内容の形へ舵を切っていく必要があると考えています。 合併当初から都市計画税の導入に向けては検討を行っていましたが、市民の皆さまの御負担を避けるため、これまで都市計画税を導入することなく都市計画に関する財源を捻出してきたところです。 しかし、近年想定以上に扶助費が伸びたため、下水道をはじめとする都市基盤整備に要する費用を捻出することが厳しい状況であることから、本来の目的税である都市計画税の導入が必要であると考えており、御理解いただきますようよろしくお願いします。
6	今後の建築費の高騰が気になっており、また、若者の都市部への集中が更に加速化する可能性もある。 上限税率0.3%でも足りなくなるといったことはないのか。	人口減少は社会問題です。 しかし、都市計画税は目的税で、制限税率は0.3%と地方税法で規定されていますので、その範囲内で事業を実施していくこととなります。

	質問等要旨	回答要旨
7	都市計画税の導入による収入見込額の説明をしてほしい。 また、この相当額を更なる行財政改革で捻出していくことはできないのか。 これまで市が進めてきた行財政改革の実績や他自治体との比較評価などを、市民に対して見える化により公表していく必要があると考えるがどうか。	都市計画税を導入した場合の収入見込額につきましては、約9億円程度を試算しています。 また、同程度の金額の更なる行財政改革による捻出につきましては、引き続きあま市行政改革推進委員会における取組等により努力をしています。が、同額の捻出は大変困難であると考えています。 なお、現在取り組んでいる歳出削減につきまして、市民病院の改革としまして、地域医療振興協会を指定管理者とすることで、運営経費の削減効果が令和元年度から令和5年度までの累計で約21億となるなど成果を上げています。 また、歳出削減のみならず、今後は歳入確保としてネーミングライツの導入や方領区における企業誘致に取り組む予定であり、自主財源の確保に向けて様々な施策を取り入れなければいけないと考えています。 行政改革における取組や検証結果につきましては、平成23年からあま市行政改革大綱を策定し公表をしているところです。 引き続き効果的な行政改革の取組や成果に向けて努力をしていきます。
8	下水道の収益を上げたらどうか。	下水道への接続を促す勧奨業務は積極的に行っており、じわじわと接続率は上がってきています。 引き続き、接続率の向上に向けた取組を考えていきます。

	質問等要旨	回答要旨
9	伊福小学校の周りが毎年、冠水している。 雨水対策事業を行う際には、最優先の整備対象にしてもらいたい。 伊福小学校は避難場所に指定されているが、こんな状態では避難できない。 整備改善されるまで伊福小学校は避難場所から外してほしい。	今のあま市において、雨水対策は非常に重要であると考えています。 しかし、多額の費用がかかるため、まずはこの市街化区域内の排水対策に必要な水路等の測量調査を実施します。 その後、市街化区域内の浸水シミュレーションなどを実施し、その後、雨水整備の下水道事業の全体計画、それから段階的な整備計画を策定していく予定です。
10	七宝地区の冠水対策については、10年以上前から改善の要望をしているが、改善のための整備は進められていない。 安全、安心、快適なまちづくりに重要な雨水対策事業にしっかり取り組んでほしい。	七宝地区における冠水対策につきまして、現状は土地改良区等が中心となり進めていただいている事業だと我々も認識しています。 整備が早く進むよう、できる限りあま市としても協力しながら、進めたいと考えています。 また、都市計画税の導入により雨水排水対策につきましても同時に進めていくことで、さらに安全安心な住みやすいまちになるのではないかと考えています。
11	伊福の交差点改良工事が遅れており、事故を防ぐために早期に整備を進めてほしい。	伊福の交差点につきましては、愛知県が事業主体となり整備を実施しているところですが、市としましても県事業の円滑化のため、連携、協力を図っています。 事業調整や整備は少しずつですが進んでおり、御理解いただきますようお願いいたします。